

「やらされ探究」から「マイ探究」へ!

生徒が主体的に取り組む学習であるはずの探究学習に「やらされ感」を抱く生徒、教師は少なくない。探究学習を生徒、教師が自分事化し、よりよいものとするためにはどうすればよいか、事例を通じて考える。

兵庫県・私立芦屋学園中学校・高校
まで、「総合的な探究の時間」はクラス担任の裁量で実施してきた。2024年度に普通科アドバンスコース1年生のクラス担任を務めた間柴吏先生は、学校として体系立てた探究学習を確立することを念頭に、自身のクラスでの実践を開始した。まず間柴先生が行ったのは、探究学習の意義を生徒に伝えることだった。

「教師から指示されないと行動できない生徒にはなってほしくない。学習はもちろん身の回りのことも含め、日常生活のすべてにおいて自分で考えて行動できるようになる」とが、探究

探究学習の素地づくりとして フラットな対話を経験させる

生徒の 転換点

- 入学直後から対話や計画、振り返りの経験を積む
- 1年次2学期以降は、高校生活の様々な場面で生徒に自律を促す

Turning Point

探究学習の
目標を明確化し、
高校生活と接続

日常生活のあらゆる場面で 自ら考え、行動する「」ことを求めて、 探究学習の充実を図る

兵庫県・私立芦屋学園中学校・高校

「入学直後から対話しました」

探究学習の素地づくりとして1学期に重視したのがグループ対話だった。生徒間の人間関係がまだできていない入学直後から様々な機会を使って、他者と対話する経験を積ませた。

「入学直後で互いのことをまだ知らないからこそ、遠慮や気負いのないフラットな対話ができる」と考へ、英単語の暗記法といった学習方法なども、グループ対話を通して共有させました。自分たちの力で「答え」にたどり着く経験をさせたかったのです」（間柴先生）

さらに間柴先生は、生徒に家庭学習の計画とその振り返りに頻繁に取り組ませ、よりよい家庭学習のあり方についても話し合わせた。

2学期以降は、自分たちで考へ、行動するこ

学校概要	
設立	1936（昭和11）年
形態	全日制／普通科・国際文化科／共学
生徒数	1学年約260人
2024年度卒業生進路実績	国公立大は、兵庫県立大に1人が合格。私立大は、早稲田大、京都外国语大、京都産業大、同志社女子大、同志社大、立命館大、龍谷大、追手門学院大、関西外国语大、関西大、近畿大、関西学院大、甲南大、神戸学院大などに延べ153人が合格。短大・専門学校進学40人。就職6人。



吉本英寛 しまだ・らいき
教諭



間柴吏 まじば・つかさ
同校に赴任して2年目。普通科アドバイスコース主任。国語科。
総務部主任
同校に赴任して2年目。生徒会担当。



嶋田利希 しまだ・りいき
国語科
同校に赴任して2年目。生徒会担当。

図 探究学習の導入期の指導の変化

生徒に対する教師の働きかけ

目標

自分たちで考え、行動する力を身につける

1年次1学期

- ・学校生活の様々な場面でグループ対話に取り組み、他者との対話を通して新たな価値を創造することができることを体感すること
- ・計画の立案や取り組みの振り返りを頻繁に行い、主体的に物事を進める方法を学ぶ

変化

1年次2学期以降

- ・探究学習では、「他者のために」という課題の設定の方針を指示し、具体的な活動は生徒に委ねる
- ・HRの進行や小テストの計画など、教師が行ってきた活動の一部を生徒に任せる

指導の変化に対する生徒の声

現2年生・金子千寿さん

1年生の2学期に、先生が突然、終礼や講習などについて「今後どうするかは君たちで決めなさい」と言いました。それらがなくなると困ることになると想い、友人と一緒に先生に相談しに行き、終礼は私たち生徒が行い、講習の時間割も生徒が考え、先生に提案しました。探究学習も、生徒だけで考えて進めました。最初は「人口減少」「戦争」などの大きいテーマを課題に設定していましたが、グループで話し合う中で、高校生が困っていることを課題に設定しようということになり、最終的には「紙の教科書は重くて持ち運びにくいのに、なぜデジタル教科書は普及しないのか」という課題を設定しました。

※学校資料を基に編集部で作成。

<div style="position: absolute; left: